

補助事業番号 20-104
補助事業名 平成20年度自転車及び自転車関連施設に関する
研究開発等補助事業
補助事業者名 財団法人 自転車センター

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

地球環境にやさしい自転車の有効活用とその将来性や楽しさについての普及啓発を図るため、近未来型自転車の研究開発、自転車に関する展示とイベントの開催及び施設の安全整備を行いもって機械工業の振興に寄与する。

(2) 具体的な実施内容・成果

自転車の価値高揚を高め、自転車への限りない遊びの原点を追求し人々に楽しまれ・親しまれる夢の自転車「ホビーサイクル」と、時代のニーズに対応するため毎年テーマの見直しを計りながら進めている（自転車の未来を開拓する目的に一般公道での使用に適する）「近未来型自転車」の開発に向け、各種媒体を活用し広く一般大衆に呼びかけアイデアの公募を行いました。おもしろい乗り物の部並びに近未来型自転車アイデア応募件数は25,034点にもおよび毎年増加傾向にあります。10月審査委員会の結果を踏まえ各メーカーとアイデア公募入選作品の製作に関する打ち合わせを行なった結果、おもしろい乗り物（ホビーサイクル）部門では9台、近未来型自転車部門では6台の製作が可能との回答を得て、各メーカーに発注いたしました。また、平成20年11月16日には夢の自転車新作発表会の告知イベントとして、大阪万博公園おまつり広場で行われた「ABCラジオまつり」において、今年度製作した「めがね自転車」「トライ・フォー・トリオ」の2台を展示、夢の自転車記念写真コーナー等の運営と変わり種自転車の試乗会などを行いました。

そして、入賞したアイデアの考案者への記念品やアイデア公募に応募のあった学校団体等に対して、学校団体賞と特別団体賞を12月末までに発送を行いました。

夢の自転車新作発表会の開催効果を一層高めるべく、「夢の自転車アイデア賞」決定についての審査報告や「発表会開催案内」を各マスコミ40社へ送付。

読売新聞に“新作自転車の試乗会”、産経新聞には“イラストが実物に 夢の自転車15台披露”との見出しで最優秀作品の「イモムシ連結自転車（5連結）が写真入で大きく掲載されました。

なお、春のサイクルカーニバルの告知イベントにおける実施事業としてのラジオスポット放送については、マスコミ企画株式会社並びに朝日放送株式会社と打

ち合わせを行い、その効果を高めるため3月17日から27日にスポット放送を行いました。

平成21年3月21日の夢の新作発表会プレイベントでは、ABCラジオの公開生放送で夢の自転車を広く紹介。「イモムシサイクル」自転車の考案されました中山みなみさんにはアイデアの発想と試乗の感想を語って頂きました。

平成21年3月28日～29日の夢の自転車新作発表会にて本年度製作致しました合計15台の試乗撮影会を開催し、多数の方に試乗されました。

特に、今回の発表会では、製作した自転車の考案者の小学生家族や友人が駆けつけられ、大阪・堺市の小学生の担任教師や製作には至らなかったが佳作の高校生の家族が来場されるなど、夢の自転車に取り組む意義が強く感じられました。

普及啓発活動事業では、当センターのメイン施設であるサイクリングコースと自転車関連施設（ポップサイクル）について、ご来場のお客様に、より一層快適に楽しんで頂き、且つ安全運転を促す事を目的に実施致しました。

具体的には、(安全快適サイン) 大人から子供まで年齢を問わず見るだけで注意事項が分かるピクトサインを採用し、エントランスエリアの案内サイン整備及び入口のスロープ化、プラットホームの改修及び案内サイン整備を行いました。これらにより、来場者により快適で楽しい乗り物を提供する事ができ好評を得ております。またコース安全教育施設（安全教育型シェード）では近年の環境問題の関心が高まる中、自転車による交通マナーや走行技術の低迷により自転車事故が問題視されております。本事業では、不特定多数の来場者に対し、「小さな子供達にも楽しみながら自転車のいま置かれている交通事情の認識や自転車のマナーや交通ルールを学んで頂ける安全教育型施設」を目的とし、大阪府と大阪府警本部の監修を得て、安全教育型シェードを設置致しました。

自転車とエコ（自転車発電展）自転車エコフェス 10月11日から10月13日の3日間自転車を通じて、“エコ”についてもっと学んでもらうためのイベントを開催し実際に自転車を漕いで発電する参加型施設では発電量を数字で体験し、温室効果ガスをほとんど排出しない“エコ”な乗り物、人間の持つエネルギーを転換できる自転車の魅力が普及できました。また10月11日には発電機を取り付けた6台の自転車を漕いで作られたとれたて電気（漕ぎ手には競輪選手も参加）で歌手の桑名正博さんとの自転車発電ライブを行い約2000人の観客が屋外ライブを楽しみました。

自転車の可能性（サイクルアドベンチャー展）においては、当センターの職員でありアドベンチャーサイクリストの先駆けでもあります池本元光が近年多くのテレビ番組で紹介されるなど、アドベンチャーに対する関心の高さを証明しております。池本の世界の国々を走行した冒険の軌跡のパネル展示、また時代の先駆け

となった世界挑戦当時のエピソードなどを交えた関係者の紹介を行い、実際に思いのこもった自転車の展示を行いました。多くの来場者が、通常とは違った形での自転車の可能性をテーマにした展示イベント「自転車で世界を冒険」を目にし、これから冒険に出かけようもしくは少し冒険をしたいアドベンチャーサイクリスト達の感動する場面がみられるなど、自転車に対する普及啓発を展開いたしました。

2. 予想される事業実施効果

夢の自転車研究開発における一連の事業成果は、本事業の公表(イベント等の開催)により各方面のマスコミ関係の取材等があり、事業の意義が高く評価されました。

また、新作夢の自転車・近未来型自転車の制作発表の場として夢の自転車フェスティバルと題してラジオ番組を誘致し番組の中で夢の自転車作品募集で実際に当選した考案者を当センターに招き番組の中で紹介し、制作しました自転車に乗りたりラジオ番組のリスナーが手で触れたりする一面もあり公共の電波を通して広く多くの方々に知って頂き自転車の認識を広く変えることのできるイベントとして認知していただければ今後の普及奨励のきっかけとなりうることができました。

当センターの変り種自転車には入場者の9割が利用する施設であり、また変わり種自転車広場外周には自転車競技場もあり、イベント参加者のみならず変り種自転車利用者および観覧席の来場者等も当日はかなりの方々が実際に制作した夢の自転車を楽しんで頂きました。

当センターが普及奨励事業で実施した、見せるためのイベントや展示事業は、センター内外で実施・PRする事により自転車のイメージを強くアピールできたことや、本事業の成果により今後ますます自転車に対する利用の多様化、文化の定着・利用の拡大が図れるものと思われ、その効果は着実に伸びている。

特に、ホビーサイクル研究開発事業は、各業界関係者との協力により一般市民が望み・小さな子供達が自転車について考え、自転車に対する夢を形に起こしたスケッチを、新しい自転車の形として創造やデザイン等を考慮し、多様な方向を模索、実用に向け開発を行っており、自転車産業の活性化と広く一般の人々の自転車に対する希望や夢を自転車産業へ反映させることにより、市民の理解がより一層深まると予想される。

3. 本事業により作成した印刷物

夢の自転車アイデア募集要項

夢の自転車募集チラシ

夢の自転車作品集

夢の自転車アイデア作品展開催要項・応募用紙

4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 財団法人 自転車センター(ジテンシャセンター)
住所： 586-0086
大阪府河内長野市天野町 1304
代表者： 理事長 森本 龍男(モリモト タツオ)
担当部署： 総務部
担当者名： 永池 摩弥(ナガイケ マヤ)
電話番号： 0721-54-3100
FAX： 0721-54-1717
E-mail： soumu@kcsc.or.jp
URL： <http://www.kcsc.or.jp/>